

学産官連携協議会 学業充実WG 早稲田アスリートプログラムの取組み



WASEDA University
早稲田大学

2017年10月13日
早稲田大学 礒 繁雄

早稲田大学創立150周年(2032年)への 中長期的計画「Waseda Vision150」



WASEDA VISION 150
WASEDA UNIVERSITY

大学スポーツの価値を高める！



学生アスリート(Student-Athletes)の価値を高める！



社会を支えるグローバルリーダーを育成する！



文武両道を高いレベルで実現し、
ライフスキルプログラムで学生の成長を促進する
「WAP(早稲田アスリートプログラム)」を開始(2014)

WAP(早稲田アスリートプログラム)とは

WAPは、早稲田大学の代表として戦う、すべての学生アスリート(体育部員)に提供する、組織的かつ統合的な教育プログラムです。

豊かな人間性を涵養するための「人格陶冶の教育プログラム」と、部員の学業をサポートする「修学支援プログラム」の2本の柱から成りたっています。

WAPでは、大学を代表する学生アスリートとして、ふさわしい基本的な心構え、知識、教養、社会で求められるスキルを学びます。

本学は、競技成績や勝利の追及のみでなく、文武両道を高いレベルで実践し、社会の様々な分野で活躍できるリーダーを育成します。

WAP 2本の柱

人格陶冶のための 教育プログラム

アスリートとしての
教養プログラム

キャリア形成支援
プログラム

ボランティア・地域貢献
活動支援プログラム

国際交流支援プログラム

修学支援 プログラム

学業情報管理と活用

部員指導と
アカデミックアドバイス

成績優秀者の表彰
(GPA: 個人・部)

WAP学年別目標

1年生

- ・ 学業と部活動を両立する生活習慣の確立する。
- ・ 早稲田大学と早稲田スポーツの歴史を理解し、大学を代表してプレーする誇りと自覚を持つ。

2年生

- ・ 上級生としての自覚と責任を持って後輩を指導するとともに、自立したアスリートになる。
- ・ 社会を構成する一員としての高いモラルを持ち、早稲田アスリートにふさわしい言動ができる。



早稲田スポーツ新聞会

3年生

- ・ 課題解決についての明確なビジョンを持ち、チームの中で自分を活かす。
- ・ 社会において自ら率先して行動できる能力を身につける。

4年生

- ・ 最上級生としてのリーダーシップを発揮し、チームを目標達成に導く。
- ・ 文武両道の実践により培われた人間力で社会に貢献できる人材となる。

WAPをなぜ開始したのか

【WAP開始記者会見(2014年4月)での最初の質問】

- ・WAPを開始する理由は、やはり部員は成績が悪いからなのか？
- ・成績の悪い部員は、出場させないのか。競技結果に悪影響は？



【本学のメッセージ】

- ・成績が悪いからスタートするのではない。多くは4年間で卒業し文武両道を実践。就職活動も良好。WAPは、さらなる高みを目指すプログラム。
- ・部員の人間的成長を統合的・組織的に支援・推進。
- ・修学支援の必要な部員への組織的サポート＋成績優秀者の表彰
- ・蓄積データ(学業成績、社会貢献)の分析と新施策への展開。
- ・情報発信(ボランティア、地域連携等)による活動紹介。
- ・大学スポーツ(=人材育成)の目標の明確化
→部員の社会的評価向上



成果①人格陶冶のための教育プログラム

- ・すべての部員にテキストを配布、動画配信
- ・教養プログラム(講演会、セミナー)
- ・キャリア形成支援プログラム(キャリアセミナー)
- ・ボランティア・地域貢献(スポーツ教室・障がい者支援・震災復興)
- ・各学期の振り返りレポート提出



- ・アスリートとしての教養の深まり。
- ・出会いや発見が増え、部員の人間的成長の場が拡大。
- ・部員の活動・成果が可視化され、関係者の理解が促進。
- ・高いレベルで人間的成長をめざす機運の上昇。
- ・学生、指導者、関係者の満足度・評価が高まる。



ボランティア・地域貢献プログラムの取組み

地域と大学の連結点としてのスポーツ

◆ 早稲田スポーツフェスタin東伏見:

2012年開始。競技スポーツセンターが、体育部員800名とともに開催するスポーツイベント。毎年5000人の子供を中心とした地域住民が参加。



成果②修学支援プログラム

- ・学業データを集約することに関する全部員、部長の了解。
- ・学内各種会議体におけるWAPの主旨説明。
- ・所属学部、関係箇所の賛同を得、大学全体がWAP開始に協力。
- ・規則や運用内規を定め、制度化。



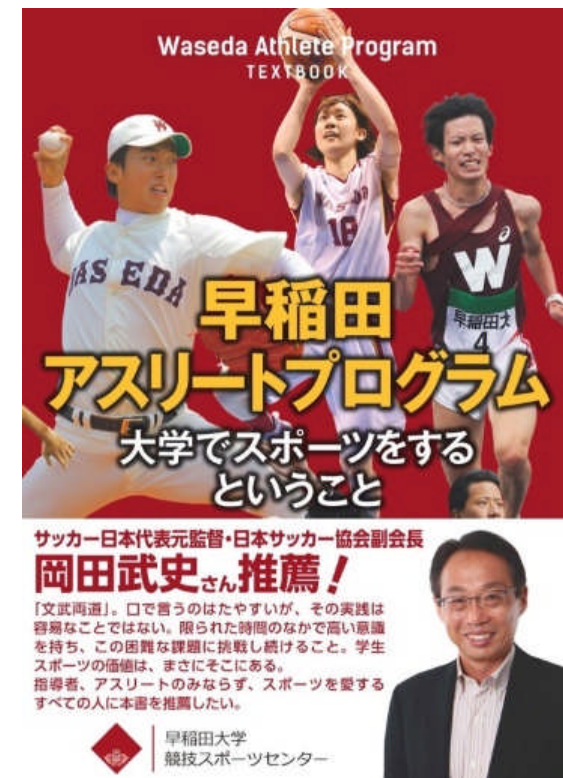
- ・OB・OG含む部全体で、高いレベルの文武両道を目指す機運の拡大。
- ・スタート時と比較し、要指導部員（修得単位数不足）の比率低下。
- ・成績優秀な部員を可視化・表彰。
- ・44部でGPA1位の部員→所属学部の首席という例も散見。

成果③『テキストブック』の市販化・広報

- ・2014年：WAPテキストブックを独自に作成し全部員に配布。
- ・2016年：テキストを再編集し市販化（BookWay）。
- ・WAPにおける各活動をWebサイト、SNS等で発信。



- ・早稲田スポーツが進めていること(WAP)を積極的に公開。
- ・『テキストブック』を通じた指導者、学内関係者にWAP理解促進。
- ・他大学、学外（メディア、企業）の関心の高まり。



成果④他大学、企業、メディアとの交流

・WAPの実施と情報発信



- ・全国の大学関係者との情報交換、交流機会の増加。
- ・メディア(新聞、テレビ等)取材による、幅広い情報発信。
- ・WAPと連動し、結果的に本学/早稲田スポーツの発信機会が増加。
- ・一般、校友、受験生保護者等による評価。
- ・「大学でスポーツをすることの価値観」の醸成。
- ・早稲田スポーツ+部員の評価上昇
- ・学内の関心が高まり、理解者が増加



共同通信社

成果⑤アシックスとの組織的連携

- ・大学スポーツのあり方、理念について共感、一致
- ・2016年 早大とアシックスの組織的連携開始



- ・授業、教育プログラムへの協力
- ・スポーツに関する共同研究
- ・スポーツボランティアの支援
- ・スポーツ教室の支援
- ・キャンパスストアの設置
- ・応援グッズの制作・販売
- ・スポーツを「する」「見る」「応援する」
機会の提供・協力

- * ランニング教室
- * 早慶戦応援企画





WAPの課題・未来

